

計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

会報

2003-05

発行日：平成15年5月8日

発行元：計画・交通研究会

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489

E-mail = easts@sa2.so-net.ne.jp

Homepage =www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/

目次

Opinion	1-2
汐留の風景に思うこと	
News Letters	2-5
事業報告・活動報告	
Announcement	5-6
研究会・催事の御案内	
Publication / Documents	6-10
刊行物・文献資料	
Backyard	11
事務局通信	

Opinion

汐留の風景に思うこと

中井 祐

三浦半島にある自宅から車で東京に出かけるときは、いつも横浜横須賀道路から湾岸線に入り、途中で横羽線に乗り換えて、銀座に向かう。毎回、品川の手前、京浜運河沿いを東京モノレールと併走するあたりから、なにやらやるせない気分が襲われ、汐留の脇を抜ける頃、その気分は怒りに転じる。そして、隣で運転している妻に向かって愚痴を言うのである。まったくこれは、何という風景であることか、と。妻はまた始まったわ、という面持ちで、それでも相づちを打ってくれるのであるが、最後にはいつも、専門家でしょ何とかならないの、と一言放つものだから、二重に悔しさが募るのである。

車内から眺める風景で私たち夫婦の心証を害するのは、品川駅裏の再開発、その向こうに見える麻布や六本木周辺のお世辞にも品が良いとは言い難い超高層ビル、極め付きは、まるでおもちゃ箱をひっくり返したかのような汐留地区のオフィスビル群である。恥ずかしながら私は、厳しい不況下にあって、このように十本だか二十本だか（実際、数える気にもならない）、超高層ビルがもの凄い勢いで増殖してゆく、そのからくりがわからない。不良債権処理だとか、外国の資本が介入してどうしたとか、いろいろ教えてくれる人はい

るのだが、自分の生活する都市を借金返済のかたにされて、挙げ句おもちゃ箱のようになるのではたまらない。

隣人のアルゼンチン人を相手に、一杯飲みながらそんな文句を言っていたら、彼は日本の歴史文化に造詣が深いのであるが、麻布だの六本木だの、あんな田舎のことは放っておけ、と言う。しかし汐留はいけない、あそこは日本の近代の原点ではないか。その大事な場所をあんなにしてしまうなんて、おまえたち日本人はよっぽどどうかしている。こっぴどく叱られた。

私が汐留や六本木、あるいは丸ノ内を見てやるせなさを覚えるのは、必ずしも景観上の問題ゆえではない。私が学生の頃、すなわちバブル時代にはたくさんのビルが建ち、東京は激変した。バブルが崩壊したかと思うと、今度は都市再生（＝経済再生？）でバブルも真青の派手なビルが建つ。そして今や、その余波で既存のオフィスビルが余ってしまうから、と専門家が率先してコンバージョン論議が盛んである。いったい、この国には都市計画というものがあるのだろうか。少なくとも私には、行き当たりばったりにはしか見えない。現代日本の都市計画や建築、そして土木計画の専門家は、後の世から、どのように評価さ

れることになるのだろう。

帝都復興を指揮した太田圓三は、近代日本を「実質の伴わない表面的物質文明」と批判し、東京を品位ある文化都市にしなければ、と考えた。東京の戦災復興計画を立案した石川栄耀は、都市計画とは「市民にパンとともに笑いを与える術でなければならない」と主張した。今の東京に品位が、笑いが、あるだろうか。太田・石川両先生の努力は、はたして報われているのだろうか。それも、やるせなさを引き起こすもう一つの理由である。

具体的にどのような手を打てばよいのか、残念ながら今の私には見当がつかない。情け

ない限りであるが、何とかならないのという妻の挑発に対しても、今のところ歯軋りして悔しがるしかない。しかし幸か不幸か、十年もすればガラリと変わってしまうのが今の東京である。絶望してはいけなし、その必要もない。まずは、そもそも都市とは何か、そしてこの東京という都市を成立せしめている実質とはつまるところ何なのか、よく考えてみようと思っている。そしていずれは、経済の従僕ではなく、人間の豊かな生を支えるための東京のあり方、そこへ至る道筋を、見出したいと思う。 (東京大学 講師)

News Letters

事業報告・活動報告

理事会・総会・懇親会

【理事会】

日時：平成15年4月16日(水) 17:00~18:00

場所：プラザエフ8階パンジー

出席数：18名、委任状9通

計27(理事総数28)にて成立

議事

(1) 第25回通常総会付議事項の審議

詳細は同封の第25回総会資料参照

- ・平成14年度事業報告および収支決算
- ・平成15年度事業計画および収支予算
- ・監事欠員に伴う補充選任

以上原案通り可決

(2) 会員移動の承認 原案通り可決。

(3) 幹事欠員に伴う補充選任

原案通り可決(清水建設 近藤寅彦氏から久保周太郎氏に)

(4) その他

- ・退会希望がでたときに、理由や会への不満等を聞き、再考を促す。
- ・日本土木工業会の広報委員会で「100万人の市民現場見学会」を開いている。計画・交通研究会の見学会の際は活用願いたい。

- ・EASTSのオフィスを計画・交通研究会においてオフィス代は計画・交通研究会が負担している。EASTSをNPO組織にするときにオフィスが必要である。(これはEASTSとしての便益となっている)計画・交通研究会を退会希望されたときにEASTSの会員として再考をお願いすることも必要。
- ・企業、世間が学者・研究者に何を求めているのか。会員であることのメリットをフィードバックせねばならない。
- ・定例研究会等は学術的なものが多い。企業が求めているのは他にあるのでは無い



総会風景

か。企業の方にどんな話が聞きたいかヒアリングが必要。

以上のご意見・ご提案があり、幹事会等で検討することとなった。

【総会】

日時：平成15年4月24日(木)18:00~18:30

場所：プラザエフ 8階 すいせん

定足数の確認報告

法人会員12社中9社

フェロー・個人会員86人中23人

出席者数 32

委任状 45通 合計 77

正会員総数104に対し規約29条による過半数を満足していることの報告

議事

詳細は同封の第25回総会資料参照

- ・平成14年度事業報告および収支決算
- ・平成15年度事業計画および収支予算
- ・監事欠員に伴う補充選任

以上原案通り可決

【懇親パーティー】

日時：平成15年4月24日(木)18:30~20:00

場所：プラザエフ 7階 カトレア

窪田事務局長の司会・進行で中村会長の挨拶、乾杯に始まり、会員相互の交流・親睦がはかられ、森地副会長の中締めで流れ解散となった。

2003年4月 計交研・当て塾共催セミナー (第 講・第1回)

日時：平成15年4月23日(水)17:00~19:00

場所：計画・交通研究会会議室

講師：「当て塾」塾長 鈴木 忠義

演題：第 講の開催にあたり：

観光の学と術の研究開発にむけて

計画・交通研究会と「当て塾」との共催セミナーの第 講がスタートした。第1回目は、第 講のガイダンスで、観光の研究開発の枠組み、原論の意義・役割、原論の目次、セミナーの進め方等が説明された。参加者は、計画・交通研究会関係8名、「当て塾」関係8名(塾長を含む)計16名であった。

今回のセミナーは観光の原論についてで、鈴木先生の講義を中心としながら、参加者との議論によって観光原論の目次づくりを進めていく予定である。また、専門分野のコメンテーターを招き、議論を深めていく予定である。

セミナーの開催回数は、第 講と同様に毎月2回で、後述の目次(大項目)に沿って概ね10回程度を予定している。

【講演概要】

1. 観光の研究開発の枠組み

観光の学と術の研究開発の枠組みは、次の四つの部門によって構成される。(会報の予告に掲載したチャートを参照)

- ・観光原論(今回のテーマ)
- ・開発・経営論(Plan Do See、ソフト・ハード等/地域・各論がある)
- ・観光手法群(計画技法、旅行術等)
- ・周辺諸学(文化人類学、行動科学、法学・経済・社会、国土計画、まちづくり等)

観光原論は、原論のための原論ではなく、概念規定、コンセプトとして、開発・経営論の冒頭に掲げられるものである。また、周辺諸学に基づいて観光手法群が確立され、その手法群に支えられて開発・経営論が成り立つもので、四つの部門が密接に関連して構成されている。

2. 原論の意義・役割

原論の意義・役割は、次のようである。

- 本質をつかむ、哲学的にすすめる
- 概念・conceptを明確にする
- プロは原論を持っている
- 本気になれる、パワーが出る
- 道筋が通せる
- 間違いを犯さない
- 長続きする
- 満足が得られる
- 自分が成長できる
- セルモーターとなる

原論とは、“その分野における自分の研究の位置づけ、方向づけ”という本質を示すも

ので、土木や観光にこうした原論がないことが問題である。道路公団の民営化問題では、高速道路整備に関する原論がないために、経済性の側面のみで議論が終始した感がある。

3. 観光原論の目次

原論の目次(大項目)は、以下のようである。

- (1) 人はなぜ旅をするのか
- (2) 日本の旅人・世界の旅人
- (3) 旅と汎観光
- (4) 汎観光の意義と役割
- (5) 汎観光行動論
- (6) 汎観光の産業構造
- (7) 汎観光の政治・経済・社会
- (8) 汎観光と地域づくり・まち(観光地)づくり
- (9) 汎観光の未来
- (10) 汎観光の学習・研究

文献・資料・年表 その他

「汎観光」: 広義の意味での観光(兼観光、リゾート、余暇活動、空間なども含む)

4. セミナーの進め方

本セミナーでは、上記目次に沿って議論を重ねていき、観光原論の細目次(章・節・項)をつくり上げる。例えば、10章×10節×10項=1000項目の目次構成である。

セミナー出席者の積極的な参加を基本とするもので、意見のメモを提出していただきそれをまとめていく。また、議論を進めるなか

で、目次の小項目の加筆・修正を行っていく。

本セミナーへの参加は随時受け付けておりますので、ご希望の方は、計画・交通研究会事務局までご連絡ください。

(文責:「当て塾」東京事務局 野倉 淳)

2003年度 第1回共催セミナー

日時:平成15年4月24日(木)13:00~18:00

場所:プラザエフ

ここでいう「共催」とは、計画・交通研究会、アジア交通学会、国際協力事業団の3団体の共催を指す。趣旨はアジア地域で行われている開発調査の内容を、会員をはじめとする関係者に紹介し、各調査の特長を披露するとともに、対象調査やODAのあり方など、幅広い議論を行うことにある。本共催セミナーは2001年度末に2回(カンボジア国プノンペン調査、インドネシア国ジャカルタ調査)行われ、今回が都合第3回目でもある。

プログラム

13:00~13:10 主催者代表挨拶

アジア交通学会(EASTS-Japan)事務局長
筑波大学 教授 石田 東生

国際協力事業団(JICA)社会開発調査部社会
開発調査第一課長 成瀬 猛

13:10~14:40 ヴィエトナム国南部港湾
開発計画

国際臨海開発研究センター顧問

西田 幸男



鈴木忠義 先生



共済セミナー風景

国際臨海開発研究センター第3調査部長

島田 敬

(株)日本港湾コンサルタント取締役海外業務
部長 永井 康平

14:40~16:10 ラオス国南部地域道路改
善計画調査

土木研究所基礎道路技術研究グループ長

安居 邦夫

(株)オリエンタルコンサルタンツ国際事業部
開発部長 福田 正美

コーヒーブレイク

16:20~17:50 フィリピン国マニラ首都
圏高速道路整備官民協力
手法構築調査

国土技術政策総合研究所高度情報化研究セ
ンター情報基盤研究室 奥谷 正

(株)アルメック技師長 涌井 哲夫
17:50~18:00 閉会

今回は3カ国の、港湾・地方道路・都市高
速道路など幅広い交通に関する話題提供を頂
いた。参加者も会場定員である100名に近く、
熱心な討議が交わされた。ODAの見直し機運
の高まりから、より質の高い、工夫を凝らし
た調査内容が求められる時代である。今後も
機会を見つけて共催セミナーを継続させてゆ
く所存である。最後に、ご多忙中にも関わら
ず、今回の話題提供を快く引き受けてくださ
った講演者各位に感謝する次第である。

Announcement

研究会・催事の御案内

2003年5月定例研究会

(土木学会CPDプログラム)

日時：平成15年5月12日(月)16:00~18:00

場所：計画・交通研究会会議室

テーマ：「アメリカ・シカゴにおけるPI-イリ
ノイ大学による取り組み事例報告-」

(Developing a Plan from Bottom Up: A
Case Study of Public Involvement)

講師：イリノイ州立大学都市交通研究センター
Assistant Professor 河村 和哉 先生

司会：東京商船大学

助教授 兵藤 哲朗 先生

内容：わが国でもここ数年、多くのプロジ
ェクトでパブリックインボルブメント(PI)
の重要性が認識され、その試みがなされつつ
ある。

現代のPIの源流は無論、アメリカにあると
いえる。本研究会では、イリノイ州シカゴ近
郊のOak Park町でイリノイ州立大学のスタ
ッフや学生が中心となり実施されたPIの事例
を紹介していただく予定。本PIでは、IT関連
装置を用いた幾つかの新しい試みもなされ、
合意形成に大きな役割を果たしたが、河村

先生にその成果を分かりやすく解説してい
ただく。

講師の河村先生は、高校時代に交換留学生
として渡米後、カリフォルニア大学バークレ
ー校で修士号を取得し、5年間の米国内の交
通コンサルタント会社勤務後、再びバークレ
ー校に戻り博士号を取得され、現職に就かれ
た。交通計画の研究はもとより、実務者の立
場からもアメリカの交通計画に対して幅広い
知見をお持ちの方である。本研究会では、講
演タイトルに限らず、アメリカ交通計画事情
全般にわたる様々な意見交換も予定している。

2003年5月 共催セミナー

(第 講・第2回)

共催：計画・交通研究会、当て塾

日時：平成15年5月14日(水)17:00~19:00

場所：計画・交通研究会 会議室

テーマ：観光原論 第1章

人はなぜ旅をするのか

1. 人類の二足歩行、採取行動

(山菜取り、潮干狩り・・・)

2. 1万年の農耕から季節変動、集落形成

- 3. 世代交代など、祭・芸術の発生
 - 4. 集散、離合の発生
 - 5. 生得説へ集約できるのではないか
- 1～5までの内容が時間内に終了しない場合は、残りの内容を第3回のテーマとします。
- 講師：「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生

2003年5月 共催セミナー
(第 講・第3回)

共催：計画・交通研究会、当て塾
 日時：平成15年5月28日(水)17:00～19:00
 場所：計画・交通研究会 会議室
 テーマ：観光原論 第2章
 日本の旅人・世界の旅人
 日本の代表的な旅人を50人程度選定
 生没年、相互の動機づけ、旅行術などを考究
 第2回に予定した内容がずれ込んだ場合は、第4回のテーマとします。
 関根先生を交えて、第1章(人はなぜ旅をするのか)に関する討論を行います。
 講師：「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生
 特別コメンテーター：日本女子大学人間社会学部教授 関根康正 先生(文化人類学)

2003年6月 共催セミナー
(第 講・第5・6回)

第4回 6月11日(水)17:00～19:00
 第5回 6月25日(水)17:00～19:00

7月定例研究会

日時：平成15年7月7日(月)17:00～19:00
 場所：計画・交通研究会 会議室

「魅力ある美しい"まち"づくり」鼎談
 みにくい"まち"をいかにしたら清潔で魅力ある表情豊かな"まち"にすることが出来るだろうか。

- 育成を前提にしたまちづくりの思考が大切なキーワードとなるだろう -

情熱：美意識をまちの人々にいかにもってもらうか(基本と応用、時間条件と空間条件と人材群)

信頼：まちの解剖や整形手術は誰が執刀者になるのか(まちの治療時代の到来と市民の生涯設計との共生)

賛同：空間密度+配置+動向+ のアルファ-が何かの思考(計画者群と計画実行者群のためのバックアップシステムの位置づけ)

鼎談者：東京工業大学名誉教授 中村 良夫 先生
 工学院大学 名誉教授 中嶋 泰 先生
 中国同経大学顧問教授 渡部与四郎 先生

三先生の鼎談後、軽い飲食をしながら参加者で意見交換・ディスカッションする。

Publication / Documents / 刊行物・文献資料

2003(平成15)年度学位取得論文

以下に個人会員が指導教官となった博士論文、修士論文、卒業論文を紹介します。閲覧・貸出しおよび個別研究会も行います。ご希望の方は事務局までお申し込み下さい。

大学/大学院名・学科/専攻名・研究室名(指導教官名) <大学名五十音順>

論文著書名/論文表題/取得年月日/区分/レベル(I=基礎的、II=改良後実務応用可能、III=実務応用可能)/Web Page

秋田大学土木環境工学科土木環境工学専攻

今井信宏/積雪寒冷地における道路危険性評価に関する研究//修士/

九州大学大学院・工学府・都市環境システム工学専攻・交通システム工学研究室

江島 武 / 移動体通信を使った鉄道の客扱い自動化の可能性に関する研究 / 平成15年3月25日 / 修士 /

北川聖子 / 衝撃をうける梁の挙動解析法に関する研究 / 平成15年3月25日 / 修士 /

宋 棋 / 歩行環境の特性を考慮した通勤歩行者交通量配分モデル / 平成15年3月25日 / 修士 /

弟子丸 将 / レール振動を考慮した鉄道急曲線区間における台車蛇行動に関する研究 / 平成15年3月25日 / 修士 /

藤村紀陽 / 個人差を考慮したリクリエーション施設利用者の行動に関する研究 / 平成15年3月25日 / 修士 /

埼玉大学大学院理工学研究科・久保田研究室

Hyunjung Chung / Development of Dynamic Forecasting Module considering Driver's Response to Advanced PGI System using Real-Time Data / 平成14年9月 / 修士 /

磯田伸吾 / 地区道路における交通静穏化のための物理的デバイスの設計と配置に関する研究 / 平成15年3月 / 修士 /

福本大輔 / GISを活用した交通シミュレーションの実用性向上に関する研究 / 平成15年3月 / 修士 /

本間康仁 / 交通まちづくりにおける住民の多様性を考慮した住民参加手法に関する研究 / 平成15年3月 / 修士 /

吉田 豊 / 観光客の行動および意識に着目した駐車場予約制の導入可能性に関する研究 / 平成15年3月 / 修士 /

山岸純一 / 立地主体に着目した土地利用現象の発生メカニズムとその評価に関する研究 / 平成15年3月 / 博士 /

筑波大学都市交通研究室（筑波大学大学院社会工学研究科）

松田和香 / 道路計画プロセスにおけるPIの評価 / 平成15年3月 / 博士 / II

筑波大学都市交通研究室（筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム工学専攻）

上原穂高 / 東京都市圏における世帯の自動車保有及び交通行動の要因分析 / 平成15年3月 / 修士 /

川上 剛 / 公共土木工事に着目した建設副産物の流動実態に関する基礎的研究 / 平成15年3月 / 修士 /

城間太基 / 千葉柏道路協議会における電子会議室による議論への影響 / 平成15年3月 / 修士 /

古川和広 / 降雨状態を考慮した高速道路交通容量モデルの作成 / 平成15年3月 / 修士 / II

筑波大学都市交通研究室（筑波大学大学院環境科学研究科）

金山直司 / 実走行における自動車排出ガス原単位推定に関する研究 / 平成15年3月 / 修士 / II

東京大学大学院・農学生命科学研究科・森林科学専攻・地域資源計画学研究室

秋本周 / 山形県村山盆地における集落が信仰する山と当該集落の空間的關係 / 平成15年3月 / 修士 /

大坪紘子 / 京都伏見稲荷山に見る自然体験を豊かにするための演出 / 平成15年3月 / 修士 /

東京工業大学大学院総合理工学研究科人間環境システム専攻屋井研究室

白濱好文 / マイクロシミュレーションを活用した交通と大気環境の広域評価システム / 平成15年3月26日 / 修士 /

飯島雄一 / 都市内地下道路の走行安全性に関する基礎的研究 / 平成15年3月26日 / 修士 /

東京工業大学大学院情報理工学研究科情報環境学専攻屋井研究室

上田新平 / ショッピングセンター前ジブニーストップ付近の道路交通流シミュレーションシステムの開発 / 平成15年3月26日 / 修士 /

渡邊 健 / 利用者間の相互依存性を考慮したETC車載器普及予測モデル / 平成15年3月26日 / 修士 /

東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻屋井研究室

Irwan Prasetyo / Analysis On Value Of Activity Time Based On Individual Needs / 平成14年9月30日 / 博士 /

Narumol Opachavalit / Conjoint Analysis for Individuals' Purchasing Behavior of ETC In-Vehicle Transmitters / 平成14年9月30日 / 修士 /

根橋和也 / 交通需要予測の不確実性に対する住民意識構造の分析 / 平成15年3月26日 / 修士 /

東京商船大学大学院商船学研究科博士前期課程流通情報工学専攻地域計画研究室（高橋洋二、兵藤哲朗研究室）

西脇正倫 / 首都圏における自動車流動特性とネットワーク評価方法に関する研究 / 平成15年3月25日 / 修士 /

東京大学工学部土木工学科東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻建設マネジメント開発システム研究室

西 将弘 / 不完全コンテストブルモデルによる国内航空運送事業参入用件の分析 / 平成15年3月28日 / 修士 /

出井理佳 / 途上国の電力セクターにおける官民パートナーシップの適用方法に関する研究 / 平成15年3月28日 / 修士 /

武市格人 / PFI方式による公的情報システム調達のリスク対応における柔軟性評価 / 平成15年3月28日 / 修士 /

丸川秀満 / 意志決定の柔軟性を考慮した事業評価の算定に関する考察 / 平成15年3月28日 / 修士 /

成松雅子 / 地方自治体におけるパフォーマンス評価に基づく社会資本マネジメントシステム / 平成15年3月28日 / 修士 /

犬飼洋平 / 公共政策における事実認識と価値判断をめぐる言説の行動分析 / 平成15年3月27日 / 学部 /

田中哲史 / 地方行政機関における組織マネジメント / 平成15年3月27日 / 学部 /

豊田康一郎 / 効率的な資源配分を目的としたインフラ会計の構築 / 平成15年3月27日 / 学部 /

広瀬将嗣 / 都市サービスの変遷に関する組織論的分析 / 平成15年3月27日 / 学部 /

東京大学工学部都市工学科都市交通計画研究室

庄司義明 / 日帰り観光のスケジューリングに関する研究 - GISを用いた旅行計画支援システムの開発と適用 - / 平成15年3月29日 / 卒論 /

東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻

上杉友一 / 過飽和孤立交差点における信号制御（英文） / 平成15年3月 / 修士 / II

Edy Purwono / 有料道路の通行料金と交通量の関係に関する実証的分析（和文） / 平成15年3月 / 修士 / II

東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻虫明・沖研究室

大楽浩司 / 東南アジア熱帯山岳地域における降水過程に関する研究（英文タイトル：Observation and numerical experiments of precipitation in a tropical mountainous region in Southeast Asia） / 平成15年3月28日 / 博士 /

瀬戸心太 / マイクロ波リモートセンシングによるグローバルな土壌水分量推定に関する研究（英語タイトル：Soil moisture estimation by microwave remote sensing on global scale） / 平成15年3月28日 / 博士 /

芳村 圭 / 水の安定同位体比情報を用いた広域大気水循環過程の解明に関する研究（英語タイトル：A study of Atmospheric water Circulation Processes by applying Stable Isotopic Information） / 平成14年9月30日 / 修士 /

花崎直太 / 貯水池操作を考慮した全球河川流量シミュレーション（英語タイトル：Global River discharge simulation with reservoir operations） / 平成15年3月28日 / 修士 /

櫻田 爽 / 東京における明治以来の時間降水量特性（英語タイトル：Characteristics of Hourly Precipitation in Tokyo Since Meiji Era） / 平成15年3月28日 / 修士 /

河村 愛 / 仮想投入水量を考慮した世界の水逼迫度の経年変化（英語タイトル：History of world water stress focusing on virtual required water transfer） / 平成15年3月28日 / 修士 /

佐藤未希 / 食料生産に必要な水資源の推定（英語タイトル：Estimation of Required water Resources in Food Production） / 平成15年3月28日 / 修士 /

谷口親吾 / 衛星データ同化を利用した裸地における土壌水分量プロファイルの算定（英語タイトル：Estimation of soil moisture profiles on bare soil surface with satellite data assimilation） / 平成15年3月28日 / 修士 /

柳沢宏之 / 日米中における都市用水需要の比較分析（英語タイトル：Comparative Analysis on Municipal

Water Demand in China, USA and Japan) / 平成15年3月28日 / 修士 /
東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻原田研究室
木下真紀子 / オープンカフェの魅力に関する研究 / 平成15年3月28日 / 修士 /
西村潤也 / 広域道路計画における参加型計画手法に関する研究 - PI (パブリック・インボルブメント) に
着目して / 平成15年3月28日 / 修士 /
林良太郎 / バス路線網の利用者評価における分かりやすさに関する研究 - 乗り継ぎ抵抗との関係を考慮し
て - / 平成15年3月28日 / 修士 /
吉原 卓 / 住区内におけるこどもの交通環境に関する研究 / 平成15年3月28日 / 修士 /
東京大学大学院工学系研究科・社会基盤工学専攻・地域/情報研究室
TIGLAO Noriel Christopher / 発展途上国における世帯特性の空間的分布推定に関する研究 ~ マニラ首都
圏における不法居住者の世帯特性を中心として ~ Small Area Estimation and Spatial Microsimulation of
Household Characteristics in Developing Countries with Focus on Informal Settlements in Metr / 平成14年9
月 / 博士 /
TAWECHAITOSAPOL Mongkol / 三角網分割による連続エリアカルトグラムの作成手法 A New Method
of Continuous Area Cartogram Using Triangulated Irregular Network / 平成15年3月 / 修士 /
白熊良平 / 明治時代・東京のフライスルービジュアライゼーション / 平成15年3月 / 修士 /
内藤哲司 / 時間管理概念の観点から見た公共事業における不確実性下での最適な意思決定タイミングと整
備形態に関する研究 / 平成15年3月 / 修士 /
長谷川利晴 / 地域への外国人観光客誘致政策に関する基礎的研究 ~ 台湾人の海外旅行に関する実態と意識
に着目して ~ / 平成15年3月 / 修士 /
平岩洋三 / 心理・物理指標の関係に着目した道路サービス水準の定量化に関する研究 / 平成15年3月 / 修士 /
本田 卓 / 高高度ビデオカメラによる車両動態計測の実用化に向けた動画像解析手法の構築 / 平成15年3
月 / 修士 /
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻都市交通計画研究室
椿高範 / 心理的要因を考慮した自転車駐車行動に関する基礎的研究 / 平成15年3月28日 / 修士 /
萩原浩之 / 事業所立地誘導政策の自動車環境負荷低減効果に関する研究 / 平成15年3月28日 / 修士 /
萬代能久 / 交通政策評価のための生活行動パターンの効用の測定に関する研究 / 平成15年3月28日 / 修
士 /
村上岳司 / 所要時間信頼性が交通手段選択に与える影響に関する研究 - 情報の表現形式の差異を考慮し
て - / 平成15年3月28日 / 修士 /
東北大学大学院工学研究科土木工学専攻地域計画学研究室
Varameth Vichiensan / Development of a GIS-based Test Bed for Urban Models / 平成15年3月24日 / 博士 / III
石川崇之 / 公共事業のValue for Money評価体系の構築 / 平成15年3月25日 / 修士 / II
下村直己 / 土地利用モデルのための空間効果を考慮した離散選択モデルの構造化 / 平成15年3月25日 / 修
士 / III
鈴木英二郎 / 土地利用マイクロシミュレーションにおける時間単位および主体集計レベルの影響分析 / 平
成15年3月25日 / 修士 / II
塚原武士 / 土地利用・交通相互作用の実証分析に基づく年モデルの改良 / 平成15年3月25日 / 修士 / II
東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻地域計画学研究室
春井雄介 / 利用者特性の中期的変化を考慮したバス路線再編策の評価 / 平成15年3月25日 / 修士 / II
烏頭尾 昌宏 / 学生の居住地選択行動と交通手段保有行動が公共交通利用意識に与える影響 / 平成15年3
月25日 / 修士 / III
東北大学大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻 空間計画科学研究室
石倉智樹 / SNA体系に基づく多部門貿易モデルの開発 / 平成14年6月13日 / 博士 /
Gloria P. Gerilla / Changes in Technology and Its Implication on Carbon Emissions Based on the
Rectangular Input-Output Framework / 平成15年3月24日 / 博士 /

五十嵐 淳博 / 山間部の道路景観における法面、擁壁、覆道の知覚特性と景観評価 / 平成15年3月25日 / 修士 /

北山 剛 / 人の認識に基づく公園・広場の場の類型 - 利用行動をふまえて - / 平成15年3月25日 / 修士 /
土井康義 / 自動車リサイクルにおける鉄屑の需給構造の把握 / 平成15年3月25日 / 修士 /

東北大学工学部土木工学科地域計画学研究室

五十嵐 豪 / 都市圏内における地区別の開発がもたらす社会的費用の計測 / 平成15年3月25日 / 学士 / II

高橋 啓 / 一般道路事業におけるリスク定量化のための実証分析 / 平成15年3月25日 / 学士 / II

高橋卓也 / 地方部の公共交通を取り巻く環境の変化と維持方策の検討 / 平成15年3月25日 / 学士 / I

増永英尚 / 大規模交差点における二輪車事故の比較分析 / 平成15年3月25日 / 学士 / II

日本大学大学院 理工学研究科 博士前期課程 社会交通工学科

小田崇徳 / 小型車専用立体交差導入に関する研究 / 平成15年3月25日 / 修士 /

日本大学大学院理工学研究科 博士前期課程 社会交通工学専攻 交通システム研究室

伊東英幸 / 米国のミチゲーション施策に関する研究 - ミネソタ州の道路整備事業におけるミチゲーション
バンキングシステムを対象として - / 平成15年3月25日 / 修士 /

金山拓郎 / コミュニティバス計画支援システムに関する研究 - 四街道市を対象として - / 平成15年3月25
日 / 修士 /

室蘭工業大学・建設システム工学科・プロジェクト評価研究室

井田直人 / 規制緩和後の地方空港における航空ネットワーク変容 / 平成15年3月24日 / 修士 /

大森洋介 / 社会的ジレンマからみた交通安全対策 / 平成15年3月24日 / 修士 /

塚田建人 / 人口減少下における地域変容モデルの動学化 / 平成15年3月24日 / 修士 /

手塚雄治 / 地域ITSに関わる社会実験の評価 / 平成15年3月24日 / 修士 /

三澤 勉 / 道路維持管理の評価に関する基礎的研究 / 平成15年3月24日 / 修士 /

山梨大学大学院工学研究科持続社会形成専攻 社会人修士1年コース 北村研究室

奥山久幸 / 環境教育を目的とした情報の総合化 - 富士川水系の水環境 - / 平成15年3月25日 / 修士 /

山梨大学工学部循環システム工学科 北村研究室

赤池絵美子 / 甲府盆地都市計画区域における人口動態 / 平成15年3月25日 / 学士 /

猪俣善貴 / 港北ニュータウンの宅地開発としての評価と多機能複合都市としての現状 / 平成15年3月25
日 / 学士 /

坂口垂寿沙 / 甲府盆地におけるヒートアイランド現象 / 平成15年3月25日 / 学士 /

松本 恵 / 昭和町における土地利用の動向 / 平成15年3月25日 / 学士 /

横浜国立大学 / 大学院工学研究科・計画建設学専攻/交通研究室

Surasak Taweasilp / MEASURING OF LEVELS OF SERVICE ON MULTI-LANE EXPRESSWAY BY
USING PLATOON MECHANISM (車群特性を考慮した高速道路多車線区間のサービス水準に関する研究) /
平成14年9月30日 / 博士 /

横浜国立大学 / 大学院環境情報学府・環境システム学専攻・システムデザインコース / 交通研究室

阿久津奈央 / 鉄道駅の構造的要因が乗換負担感に与える影響に関する研究 / 平成15年3月25日 / 修士 /

望月啓明 / 自動車共同利用システムが世帯の交通行動に及ぼす影響 / 平成15年3月25日 / 修士 /

横浜国立大学 / 大学院工学府・社会空間システム学専攻・建設システム工学コース / 交通研究室

松丸未和 / 都心部における自転車の走行環境の評価に関する研究 / 平成15年3月25日 / 修士 /

渡邊康英 / 歩行者の経路選択における動く歩道の影響に関する研究 / 平成15年3月25日 / 修士 /

会議室等の御利用について

当研究会の会議室、応接室をご利用下さい。

定例研究会や個別研究会の開催時以外は部屋が空いています。会員の皆様はお気軽にご利用下さい。個別研究会等で会議室を御利用になる場合は、取りあえずお電話を下さい。

会議用にはOHP、スライド(Kodak)、液晶プロジェクター(APTi)が有ります。

個別に利用できるデスクがあります。貸し出し用ノート型パソコン(IBM Think Pad)、FAX、電話、コピー、E-mailもご利用いただけます。

なお、会議室は現在利用率が非常に低い状況にあります。どうぞ、お気軽に御利用ください。(別途ホームページにて部屋の空き状況がわかり、申込みも容易にできるようなシステムを検討中)

個別懇談会のお申し込み

会員各位個別の研究やプロジェクト等につきまして、当会のフェロー会員・個人会員(地域的にも研究部門の面でも多彩な教授・助教授がおられます。既送の会員名簿を御参照下さい)が個別に御相談・懇談に応じます。ご希望により日時を調整しますので、事務局まで遠慮なくご相談下さい。出来れば具体的な研究課題・プロジェクト内容と、希望されるフェロー会員・個人会員のお名前をご連絡下さい。

原稿の募集

会報に掲載する下記の原稿を募集します。

・ **Publication/Documents** : 刊行物・文献資料。
体裁は本号4ページを御参照下さい。

・ **Announcement** : 研究会・催事の御案内
会員による講演会等の御案内も随時掲載します。日時・会場・事務局等を明記願います。

・ **Report** : 報告
海外研修報告、国際会議参加報告等
原稿執筆上のご注意

原稿のテキストファイルを電子メール(推奨。本文挿入または添付ファイルで)あるいは3.5インチのフロッピーディスクでお送り下さい。ワードプロセッサを使用される場合は、MS-Word形式もしくは一太郎形式で文書ファイルを保存して下さいようお願いいたします。

編集の都合上、400字を1単位としてその整数倍(上限4単位=1ページ分:表題・図表を含む)になるように調整して下さい。2ページ以上に及ぶ場合は御相談下さい。

写真を使用される場合は、プリントされたものを郵送願います。

締め切りは偶数月の15日(必着)です。

URLアドレスの変更

URLアドレスが変わりました。よろしく願います。

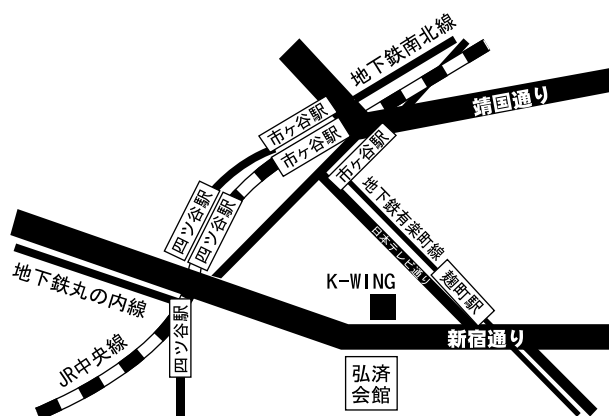
新 : <http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>

旧 : <http://www06.u-page.so-net.ne.jp/sa2/easts/>

計画・交通研究会

会長 中村 英夫
副会長 黒川 洸
副会長 森地 茂
事務局長 窪田 陽一
会報編集委員長 天野 光一
会報編集責任者 橋本 昭夫

〒102-0083
東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F
TEL=03-3265-1774
FAX=03-3221-5489
E-mail = easts@sa2.so-net.ne.jp
Homepage = <http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅下車徒歩 5分 / 営団地下鉄丸の内線四ツ谷駅下車徒歩 5分 / 営団地下鉄南北線四ツ谷駅下車徒歩 6分 / 営団地下鉄有楽町線麹町駅下車徒歩 4分